

平成30年度

国内放送番組編集の基本計画

放送総局

編集の基本方針

「大切なことを、より深く、より身近に」——。平成30年度は、「“公共メディア” 実現へ」という目標を掲げた新3か年経営計画のスタートの年です。12月にはいよいよスーパーハイビジョン（SHV）本放送が始まり、インターネットを活用した新しいサービスも充実させます。2020年に向け「最高水準の放送・サービス」の実現を目指し、視聴者の期待にしっかりと応えていきます。

平成30年度、特に意識するのは、「6つの公共的価値」(①～⑥)です。社会のありようが大きく変化するなかでも、NHKは引き続き公共放送の基本を堅持し、「公共的価値」の実現を追求します。

①「正確、公平・公正な情報で貢献」②「安全で安心な暮らしに貢献」は“公共メディア”の原点です。放送を太い幹としながら、インターネットもあわせて活用し、判断のよりどころになる正確で公平・公正な情報、命と暮らしを守る情報を提供します。また、何人からも干渉されない放送の自主自律と不偏不党を貫き、意見が対立している問題については、広く議論の場を設けます。③「質の高い文化の創造」では、多彩で見応えのあるコンテンツを制作し、幅広い視聴者に感動を届けます。④「地域社会への貢献」では、全国の放送局が地域放送を充実させ、地元の人たちにとってより身近で頼りになる放送局になります。⑤「日本と国際社会の理解促進」では、日本の多様な情報を国際社会に向けて発信するとともに、世界の今を日本に伝えます。そして⑥「教育と福祉への貢献」では、子どもや高齢者、障害者が利用しやすい放送・サービスを充実させ、多様な価値を認め合う「共生社会」の実現を目指します。

これまでも私たちは「公共的価値」を追求し続けてきました。それをよりわかりやすく、より深く、より身近なものとして伝えることで、一人でも多くの方々に役立ち、感動を与えられる“公共メディア”を目指します。そして、未来の放送・サービスを、視聴者ととともに創造していきます。

編集の重点事項

1. 安全・安心を守るために、防災・減災報道、緊急報道を充実し、被災地の復興を支援

命と暮らしを守る報道に全力を挙げて取り組みます。大規模な災害が発生したときは、テレビ、ラジオ、インターネットなど、多様な手段を用いて被災者が必要とする情報をいち早く届けます。首都直下地震、南海トラフ巨大地震などの非常事態でも、放送・サービスを維持するために、本部代替機能を充実させ、全国の放送局が連携して危機を乗り越える体制を整備します。また、東日本大震災など、全国の被災地の復興を支援し、原発事故後の対策についても継続して伝えます。

2. 国内外の課題や最新事情を、正確に、早く、わかりやすく

国際社会では核やテロの不安が広がり、緊張関係が高まっています。国内においては少子高齢化・人口減少、社会保障のあり方など、課題が山積しています。また、消費者問題やいじめなど教育問題への対策も急務です。不確かな情報が氾濫するなか、私たちは、これまで培ってきた取材力・制作力を生かし、正確で公平・公正な情報を、早く、わかりやすく伝えます。意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにし、健全な民主主義の発達に寄与します。インターネットを活用した情報収集や、データジャーナリズムなどの調査報道の手法を開発し、日本と世界の政治・経済・社会・文化の今を、深く、多角的に伝えます。

3. 多彩なコンテンツでNHKのファンを増やし、 身近で親しまれる放送局に

多彩で見応えのあるコンテンツを制作し、幅広い視聴者に「感動した」「役に立つ」「楽しめた」「考えるきっかけになった」などと言ってもらえるNHKを目指します。制作にあたっては、若年層から現役層、そして高齢者層にいたるまで、各層のニーズを的確に把握することで、幅広い世代に届くコンテンツを積極的に開発します。テレビ、ラジオの各チャンネルや、番組の役割などを明確に定め、より見やすく親しみやすい時間帯に編成するとともに、タイムシフトなどの視聴変化にも対応します。また、インターネットやデータ放送も活用し、参加・体験できる番組・サービスを充実します。子どもたちの好奇心を育て、学びと遊びを支援するサービスや、暮らしやすい社会に向けて、教育・福祉番組を充実させます。

4 4K・8K放送で、これまでにない感動の視聴体験を

12月にスタートするSHV（4K・8K）本放送は、世界トップクラスの超高精細映像で、かつてない感動を視聴者に届けます。4Kは、地上波・衛星波の中からドラマ・自然・紀行・スポーツなど多彩なコンテンツを選んで一体制作し、SHV普及の先導役を果たします。8Kは、芸術・音楽・エンターテインメントなどのジャンルから、“8Kならではの圧倒的な映像と音響”にこだわり、まるで本物と向き合っているかのような没入感、臨場感を堪能することができます。NHKが世界に先駆けて開発した8Kの魅力を多くの人に知ってもらうため、認知度の向上に努めます。

5 東京オリンピック・パラリンピックに向け、 “公共メディア”にふさわしい挑戦を

東京オリンピック・パラリンピックは、スポーツを通して多くの人たちに感動を与えるとともに、日本の文化・芸術・科学技術の素晴らしさを世界に知ってもらうまたとない機会です。NHKはこの機会を捉えて、スポーツはもとより、あらゆる分野で“公共メディア”にふさわしいイノベーションに挑戦します。SHVによる最高水準の放送・サービスをはじめ、AI技術を活用し、放送音声からの字幕化や、多言語実況サービスにも取り組みます。あわせて、社会の持続可能性にも目を向けます。また、地域が主役となり、日本中が全員参加で盛り上げる聖火リレーなどを取り上げ、人と人をつなぐメディアの機能を大きく高め、「共生社会」の実現を目指します。

6. 全国の放送局は、地域放送・サービスを充実・強化し、 地域社会に貢献

全国の放送局は、地元身近な放送局として、常に地域の人々の目線で取材・制作します。地域放送では、暮らしに役立つ情報、関心の高いテーマを積極的に取り上げ、全国放送では、豊かな自然・文化・人々の営みなど、地域の魅力を広く発信します。大規模災害が発生したときは、地元の放送局ならではのきめ細かい情報を提供し、人々の命と暮らしを守ります。また、それぞれの地域固有の課題に対して取材を積み重ね、解決の糸口を探ります。各地共通の課題については、NHKの全国ネットワークを生かし、改善のヒントになる事例を広く取り上げて放送します。

7. 国際発信を強化し、世界との相互理解を促進

日本の今を世界へ発信し、世界の動きを日本に積極的に伝えることで、相互の理解を促進します。国際放送との連携を進め、日本への理解を促す番組を一層充実するとともに、アジアの取材拠点も活用した国際報道を強化します。また、世界の情勢や世界各地の文化や生活の実情などを日本国内に的確に伝えます。さらに、SHVによる高品質のコンテンツや、国際共同制作による大型シリーズの制作など、さまざまな形で国際展開を進め、日本の魅力を広く世界に発信します。

8. 多様な価値を認め合い、ともに生きる社会を実現する

放送・サービス

誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあい、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会（「共生社会」）を実現するために、教育や福祉コンテンツ、インターネットサービスを充実させます。放送・サービスを通じて、障害者が積極的に社会に参加・貢献する機会や、日本と世界の子どもたちが交流を深める機会を提供するとともに、女性が活躍する社会の実現を推進します。さらに、すべての人が見やすく、聞きやすく、安心して視聴できる「ユニバーサル放送・サービス」の拡充に取り組むほか、字幕放送・解説放送・手話放送は長期計画に基づき準備を進めます。

以上の重点項目の実施にあたっては、以下のような施策も勘案しながら、取材・制作体制を構築します。

- これまでの質的、量的評価の手法に加えて、個々の放送・サービスの「役割」や「到達度」などの視点を取り入れ、適切な評価・管理体制を構築していきます。
- 放送倫理やコンプライアンス意識を徹底し、事実に基づく確かな情報と質の高い番組の提供に努めます。
- NHKの業務に携わるすべての人の健康確保に留意し、「働き方改革」、女性の活躍などのダイバーシティ施策の推進、職場環境の整備に取り組みます。適切なアウトソーシング、AIの導入、テレワークの拡大など、業務フローの抜本的な見直しを実施します。
- 4K・8K本放送では、これまでの試験放送で得られた知見を生かし、技術発展の先導的な役割を果たします。4Kでは、通常番組（2K）との一体制作を基本にし、限られた経営資源を効果的・効率的に活用します。8Kについても、一部のコンテンツで一体制作を進め、効率的な制作に取り組みます。

各波の編集方針

総合テレビジョン

基幹波として、命と暮らしを守る報道に全力をあげて取り組み、何人からも干渉されない放送の自主自律と不偏不党を貫きます。また、公共メディアの実現に向け、公平・公正で社会の指針となるニュースや番組、教育・娯楽・文化・スポーツなどの多彩な番組を充実させます。幅広い世代、特に現役世代や、若い世代の接触の拡大に取り組むとともに、スーパーハイビジョン、デジタル技術、インターネットなどを活用した新たな放送サービスを開発・強化します。また、地域の発信力を高め、地域サービス向上を図ります。

（編集のポイント）

1. 幅広い世代、特に現役世代、若い世代の接触を増やすため、ターゲットを明確にした多様なラインナップの番組を提供するとともに、その内容を充実・強化
2. 国際的に高い評価を得られる高品質の大型番組を制作
3. NHKに対する接触が低い層のアプローチを図るため、インターネットやデジタル技術の活用を意識した新たな番組を開発
4. 地域放送の充実と地域情報の全国発信を推進し、地域サービスを向上
5. “東京2020”までのロードマップを意識し、関連番組等を効果的に展開

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組20%以上、教育番組10%以上、報道番組35%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

教育テレビジョン（Eテレ）

教育、福祉などの重要課題に加え、語学・教養・趣味実用など多彩な番組を編成し、教育放送として、幅広い世代の“知りたい”“学びたい”に応えます。番組とインターネットサービスとの連携をより充実させ、子ども・若者の視聴拡大を図るとともに、人々の暮らしに役立ち、豊かにする放送を目指します。

(編集のポイント)

1. 教育、福祉、防災などの課題への総合的取り組み
2. インターネット・データ放送・アプリ等を活用し“参加・体験するテレビ”を提供、見るだけのテレビではなく、双方向で楽しむ機能を拡充
3. 趣味実用・健康・子育て番組等で、視聴者の関心や疑問に応える“役に立つ”インターネットサービスを充実
4. 人々の多様な知的な好奇心に応え、人生を豊かにする教養番組を開発
5. “東京2020”に向けて、多様性を認め合い、“ともに生きる”社会の実現に貢献

〔放送時間〕

○1日20時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組15%以上、教育番組75%以上、報道番組若干を編成します。

BS1

“ライブ感あふれる情報チャンネル”として、「国際」「スポーツ」「ドキュメンタリー」の各分野を充実させるとともに、東京オリンピック・パラリンピック関連番組に一層力を入れ、2020年に向かう視聴者の関心に最大限に応えます。

スポーツにおける新演出・新技術の開発、スポーツを通じた共生社会の確立、スーパーハイビジョン一体制作の推進など、2020年に向けた社会の変革に先導的な役割を果たします。

(編集のポイント)

1. “東京2020”に向けて高まるスポーツ熱や関心に応え、幅広いオリンピック関連番組を編成
2. パラリンピック競技の放送を拡大、スポーツとしての魅力を伝えるとともに障害者リポーターも積極的に起用し、共生社会実現に貢献
3. スポーツにおける新演出・新技術の開発を促進
4. 世界や日本の今と向き合う番組の強化
5. グローバルな視点で地域に光を当てる番組の充実

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組20%以上、教育番組10%以上を編成します。

BSプレミアム

“本物志向の爽快エンターテインメントチャンネル”を目指した充実・強化を図ります。BSプレミアムならではのスペシャル感、スケール感、良質な笑い、深い感動など、オリジナリティー豊かで多彩な番組をそろえた編成を行います。また、若い世代を引きつける番組を積極的に開発し、幅広い世代の視聴者に接触してもらうことを目指します。

（編集のポイント）

1. 魅力ある超大型特集番組の充実
2. 定時番組の充実によるゴールデン・プライム帯の強化
3. 視聴者層拡大を目指し、20～40代の関心を引く番組を開発
4. スーパーハイビジョン一体制作、地域の活性化に資する番組の制作を積極的に推進
5. インターネットを活用した番組の開発

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めない。

スーパーハイビジョン試験放送

多彩なスーパーハイビジョン（4K・8K）番組の制作を加速して、超高精細テレビ放送の普及促進に資するとともに、12月の本放送開始に向けてスーパーハイビジョンならではのコンテンツ開発と技術検証に注力します。

(編集のポイント)

1. 自然、紀行、美術、科学、ドラマ、音楽、エンターテインメント、伝統芸能、スポーツなど様々なジャンルの番組をバランス良く編成し、他波の定時番組との一体制作を推進
2. 8Kの特性を生かした音楽・芸術番組やスポーツ中継、放送外展開も視野に入れた8K大型番組を開発

〔放送時間〕

○1日7時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めません。

4K本放送

4Kならではの機動力と高画質の魅力を生かした番組を提供し、超高精細映像時代への入口として、先導的な役割を果たします。2Kとの一体制作を基本としながらも、見やすいジャンル編成や、先行放送で独自性を打ち出します。

(編集のポイント)

1. 週末には、4Kの機動力を生かした独自の大型コンテンツを充実。
2. 平日は、「エンター」、「サイエンス」、「ドラマ」、「カルチャー」、「ライフ」の5つの分野に分けて、曜日ごとにジャンル編成
3. 2Kよりも前に4Kで先行放送することを試行し、視聴者サービスを拡充。

〔放送時間〕

○1日18時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めません。

8K本放送

8Kならではの圧倒的な映像・音響にこだわり、既存のテレビと一線を画した“未知の映像体験”を提供します。テレビ放送の新しい世界を切り開き、世界が認めるスーパーコンテンツを発信する“NHKのフラッグシップチャンネル”を目指します。

（編集のポイント）

1. まるで本物と向き合っているような“没入感”に満ちた番組の充実
2. スタジアムやコンサートホールの特等席にいるかのような“臨場感”にあふれた大型中継や番組を編成
3. 新たな演出や見せ方に工夫を凝らし、2Kとの一体制作が可能な番組を開発

〔放送時間〕

○1日12時間10分を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めない。

ラジオ第1放送

いざという時の安全・安心を担う“音声基幹波”として、ニュース番組と地域発生活情報番組を拡大して、命を守り、暮らしに役立つ情報を届けます。番組・時間帯ごとのターゲットをより明確にし、多彩な番組展開と地域に根ざした放送をすることで幅広い世代の期待に応えます。「らじる★らじる」の普及とインターネット活用を推進し、より一層サービスの充実を図ります。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養・教育番組あわせて25%以上、報道番組35%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

ラジオ第2放送

生涯学習波として、多様な知的欲求に応える番組を編成するとともに、“東京2020”に向けて語学番組の充実を図ります。また、インターネットサービスとの連携で“いつでも”“どこでも”学べる機会を提供します。

〔放送時間〕

○1日19時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組15%以上、教育番組65%以上、報道番組10%以上を編成します。

FM放送

さまざまな音楽・芸能ジャンルのコンテンツをバランス良く編成し、総合音楽波として、リスナーの期待に応えます。平日夜間に魅力的なパーソナリティーを起用するなど、幅広い世代の接触者を増やす取り組みをしていきます。災害などの緊急時にはライフライン情報を提供し、地域情報波としてきめ細かな情報を届けます。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養・教育番組あわせて40%以上、報道番組10%以上、娯楽番組25%以上を編成します。